「ホタテ戦争」激化 フランス政府は海軍介入の可能性を示唆



４日（火）、ステファン・トラヴェール（Stéphane Travert）農務大臣は、激化するフランスとイギリスの漁船の間での争い「ホタテ戦争（La guerre de la coquille Saint-Jacques）」を受けて、「新たな衝突を避けるためにフランス海軍を介入させる準備がある」と発表しました。

ホタテ戦争とは

フランスのノルマンディ（Normandie）地方の豊かなホタテの漁場を巡り、フランスの漁船およそ40隻が、イギリスの漁船５隻に対して、投石をしたり発煙筒を投げつけてホタテ漁を妨害したことに対し、イギリス漁船が船体をぶつけるなどして応戦しました。

このことをイギリスとフランスの間で長く続いた「英仏百年戦争」にかけ、地元メディアは「英仏ホタテ戦争」と呼んでいます。

船体が破損するなど、激しい小競り合いが続きましたが、幸いにもけが人は出ませんでした。

事件の背景はこちら：
フランス漁船がイギリス漁船を襲撃 地元メディアは「仏英ホタテ戦争」と報道（９月４日）

フランス海軍を巻き込む「戦争」に発展

収束の様子を見せないホタテ戦争に対し、トラヴェール農務大臣は、地元メディアの取材に「事態が長引くようであれば、フランスとイギリスの漁師の間での新たな衝突を避けるため、漁場の安全を確保するために、フランス海軍を介入させる準備がある」と述べました。

また、ベルトラン・デュムラン（Bertrand Dumoulin）海軍大佐は、「領海における人や財産の安全を確保するため、通常の任務の枠組みの中でパトロールを行う」と述べました。

イギリス政府の反応

イギリスの政府関係者は、「今回の事件はフランス領海内で起きたため、フランス政府に権限がある。しかし、国際法によって判断されるべきで、そうなるとおのずと答えは出ている」と述べ、イギリス側はあくまでも合法的に漁を行っており、落ち度はないことを強調しました。

また、「英国海軍は必要に応じて出動することは可能だが、現在そのような要請はない」とも付け加え、海軍投入の可能性があることを示唆しました。

本日、仏英の漁業関係者代表による会合

本日（５日・水）、フランスとイギリスの漁業団体の代表者が、ロンドンで問題解決に向けた会合を開く予定です。

トラヴェール農務大臣は、「ホタテ貝の持続可能で、更に効率的な資源の保護」の為の合意に達する必要があると述べました。

一方で、会合に参加する予定のスコットランド白身魚生産者協会（the Scottish White Fish Producers Association）のマイク・パーク（Mike Park）会長は、「楽観的になるのは非常に難しいが、合意に達することを望んでいる」と述べました。また、フランスの漁業関係者らに対して、「『何か』をもって交渉テーブルに来るように」と呼びかけ、あくまでも問題はフランス側にあることを暗示しました。

果たして「ホタテ戦争」は無事に終戦するのでしょうか。

執筆：Daisuke

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ
オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師による
マンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。
いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた
質の高いレッスンが好評です。
